



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月6日

上場会社名 株式会社 マースエンジニアリング
コード番号 6419 URL <http://www.mars-eng.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松波 明宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 管理本部長 (氏名) 佐藤 敏昭

TEL 03-3352-8555

四半期報告書提出予定日 平成24年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	8,783	50.1	2,121	97.0	2,188	104.8	1,090	122.2
24年3月期第1四半期	5,850	△6.1	1,076	△22.2	1,068	△25.9	490	△40.6

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 1,087百万円 (206.1%) 24年3月期第1四半期 355百万円 (△47.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	57.26	—
24年3月期第1四半期	26.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	57,961	42,562	73.4	2,234.32
24年3月期	58,031	42,046	72.5	2,207.21

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 42,562百万円 24年3月期 42,046百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	25.00	—	30.00	55.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	30.00	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,000	10.5	2,680	△9.3	2,770	△3.9	1,670	6.1	87.67
通期	31,300	5.0	5,900	12.7	6,100	15.3	3,850	38.5	202.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期1Q	22,720,000 株	24年3月期	22,720,000 株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	3,670,576 株	24年3月期	3,670,514 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期1Q	19,049,427 株	24年3月期1Q	18,446,181 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10
(7) 重要な後発事象	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災の復興需要等が牽引し、緩やかな回復基調にある一方で、電力不足懸念や欧州の財政危機問題等、先行き不透明な状況が続きました。

当社グループの主要販売先であるパチンコ業界は、震災以降、節電によるコスト削減や広告宣伝費の抑制により、ホール収益は改善傾向にあり、また、パチスロ機関連が昨年に引き続き、好調に推移いたしました。帝国データバンクによると、平成23年の当業界の倒産件数及び負債総額は過去10年間で最少となり、パチスロ機を中心とした設備投資が積極的に行われました。

このような状況の中、開発型企業グループである当社グループは、開発から製造、販売、アフターサービスに至るまで一貫体制でコストダウンを図り、多様化する顧客ニーズに適した製品の開発ができる体制を敷くとともに、充実したサービス体制で付加価値の向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高87億83百万円（前年同四半期比50.1%増）、営業利益21億21百万円（同97.0%増）、経常利益21億88百万円（同104.8%増）、四半期純利益10億90百万円（同122.2%増）となりました。

セグメントの実績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

[アミューズメント関連事業]

主力製品のプリペイドカードシステムは、当社グループが提案する業界初のシステム「パーソナルPCシステム（以下、「パーソナル」という。）」を積極的に拡販してまいりました。集客のために玉積み演出が主流となっているパチンコ業界において、パーソナルは従業員の玉運び・玉積み業務をなくし、少人数で効率的なホール運営ができるシステムであります。

競合他社の参入により、販売競争が厳しくなる中で、景品管理システムやホールコンピュータ等の他のシステムと連動できる拡張性や機能性、充実した製品ラインアップ、全国に広がるアフターサービス体制で、付加価値及びブランド力の向上を図り、差別化を図ってまいりました。

発売当初から導入店は増加を続け、当第1四半期連結累計期間におけるパーソナルの売上実績は69店舗、当四半期連結累計期間末時点における累計導入店は1,023店舗（市場シェア10.6%）となりました。また、パーソナルを含めたサイクルカードシステムの売上実績は75店舗、導入（実稼働）店舗数は累計2,104店舗（市場シェア21.9%）となりました。設備投資が好調なパチスロ機関連を背景に、パーソナルだけでなく、パチスロ機向けメダルサンドの販売も増加いたしました。

また、世界初・業界初の技術で、空気の流れで紙幣を搬送するAir紙幣搬送システム「HAYATE疾風」は、メンテナンスが容易であり、島設備の形状も従来のシステムに比べて自由度が高いことから、市場評価は高く、販売を開始して以来、販売実績を積み上げております。

この結果、アミューズメント関連事業の売上高は、70億63百万円（前年同四半期比41.3%増）、セグメント利益18億41百万円（前年同四半期比82.4%増）となりました。

[自動認識システム関連事業]

従来より事業展開してきましたRFID事業と会員管理システム関連事業に加え、昨年度より新たに吸収合併したバーコード関連事業を加えた、「自動認識システム関連事業」は、当社子会社の株式会社マーストークンソリューションが主体となり進めております。

RFID分野では主に健診・人間ドック向け、データ収集システム「健診ステーション」、ICカードタイムレコーダー「クロノステーション」、製造業、物流業向け作業管理システム「WM（ワークマネジメント）ステーション」を中心に、付随する周辺システムを含め広く販売してまいりました。また、バーコード分野では、電子機器及び部品業界、物流業界等のFA市場において信頼と技術力を高く評価されている自社製品を中心に、広く販売を進めてまいりました。加えて自動認識システム導入の新市場の模索とノウハウの蓄積、新テーマ開拓のため、医療や教育、図書館等、あらゆる分野のビジネス展示会にも積極的に出展してまいりました。

この結果、自動認識システム関連事業の売上高は、15億6百万円（前年同四半期比118.0%増）、セグメント利益1億74百万円（前年同四半期比0.6%増）となりました。

[ホテル関連事業]

観光業においては、震災の影響で訪日外国人の激減や観光の自粛で、ホテル経営を取り巻く環境は非常に厳しい状況でしたが、国内需要を中心に回復基調で推移いたしました。

福岡市博多区で運営するホテルサンルート博多は、JR博多駅に近い立地の良さと質の高いサービスを評価され、リピート客が多く、震災直後に一時的な落ち込みはあったものの、稼働率は震災前の水準に回復いたしました。

静岡県御殿場市のマースガーデンウッド御殿場は、テレビCM等で認知度とブランドの向上に努め、インターネット媒体や旅行代理店等を通じた販売チャネルの拡大を図ってまいりました。また、企業向けにイベントの企画・提案を行い、企業による施設利用を販売促進してまいりました。

この結果、ホテル関連事業の売上高は、2億14百万円(前年同四半期比34.0%増)、セグメント損失94百万円(前年同四半期は2億16百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

当第1四半期連結会計期間末の総資産は579億61百万円となり、前連結会計年度末と比較して69百万円減少いたしました。

流動資産は383億57百万円となり、前連結会計年度末と比較して3億47百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、有価証券が6億円増加し51億89百万円となりました。

固定資産は196億4百万円となり、前連結会計年度末と比較して4億17百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、投資その他の資産が2億78百万円減少し45億4百万円となりました。

流動負債は104億91百万円となり、前連結会計年度末と比較して4億10百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、未払法人税等が8億6百万円減少し3億27百万円となりました。

固定負債は49億7百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億75百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、リース債務が1億69百万円減少し28億70百万円となりました。

純資産は425億62百万円となり、前連結会計年度末と比較して5億16百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、利益剰余金が5億19百万円増加し345億83百万円となりました。

自己資本比率は73.4%となり、前連結会計年度末と比較して0.9ポイント増加いたしました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は169億円となり、前連結会計年度末と比較して9億43百万円増加いたしました。

当第1四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は15億11百万円の収入(前年同四半期は18億80百万円の収入)となりました。主な増加要因は、売上債権の減少額7億57百万円、仕入債務の増加額6億62百万円等によるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は66百万円の支出(前年同四半期は53百万円の支出)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出15百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は5億7百万円の支出(前年同四半期は4億79百万円の支出)となりました。主な要因は、配当金の支払額5億7百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想につきましては、平成24年5月14日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる当第1四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

(4) 追加情報

(連結納税制度の適用)

当第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,919,047	12,261,557
受取手形及び売掛金	8,711,272	7,953,640
リース投資資産	4,574,250	4,356,251
有価証券	4,588,334	5,189,033
商品及び製品	2,008,049	2,211,618
仕掛品	389,240	413,236
原材料及び貯蔵品	1,867,897	1,935,962
その他	3,966,432	4,050,843
貸倒引当金	△14,552	△14,446
流動資産合計	38,009,971	38,357,697
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,465,396	8,365,171
土地	5,862,338	5,862,338
その他(純額)	564,158	543,116
有形固定資産合計	14,891,893	14,770,626
無形固定資産		
のれん	144,954	130,458
その他	200,647	198,366
無形固定資産合計	345,601	328,825
投資その他の資産		
その他	5,009,314	4,728,028
貸倒引当金	△225,765	△223,454
投資その他の資産合計	4,783,548	4,504,574
固定資産合計	20,021,043	19,604,025
資産合計	58,031,015	57,961,723
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,290,213	3,953,007
リース債務	2,114,046	2,081,312
未払法人税等	1,133,721	327,148
賞与引当金	406,248	201,971
その他	3,957,328	3,927,761
流動負債合計	10,901,557	10,491,200
固定負債		
リース債務	3,040,709	2,870,712
退職給付引当金	117,364	130,961
役員退職慰労引当金	568,755	575,175
資産除去債務	18,500	18,602
その他	1,337,972	1,312,512
固定負債合計	5,083,303	4,907,964
負債合計	15,984,860	15,399,165

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	8,371,830	8,371,830
利益剰余金	34,064,452	34,583,765
自己株式	△7,954,082	△7,954,192
株主資本合計	42,416,299	42,935,503
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△370,144	△372,945
その他の包括利益累計額合計	△370,144	△372,945
純資産合計	42,046,155	42,562,557
負債純資産合計	58,031,015	57,961,723

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	5,850,285	8,783,676
売上原価	2,789,353	4,447,382
売上総利益	3,060,932	4,336,294
販売費及び一般管理費	1,984,380	2,215,006
営業利益	1,076,552	2,121,287
営業外収益		
受取利息	1,106	1,091
受取配当金	37,699	40,270
負ののれん償却額	4,049	—
その他	35,986	25,511
営業外収益合計	78,841	66,872
営業外費用		
持分法による投資損失	85,370	—
その他	1,735	—
営業外費用合計	87,105	—
経常利益	1,068,287	2,188,160
特別損失		
固定資産除却損	141	—
投資有価証券評価損	12,000	317,882
特別損失合計	12,141	317,882
税金等調整前四半期純利益	1,056,146	1,870,278
法人税、住民税及び事業税	419,813	556,954
法人税等調整額	145,337	222,525
法人税等合計	565,151	779,480
少数株主損益調整前四半期純利益	490,994	1,090,798
四半期純利益	490,994	1,090,798

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	490,994	1,090,798
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△141,485	△2,800
持分法適用会社に対する持分相当額	5,891	—
その他の包括利益合計	△135,594	△2,800
四半期包括利益	355,400	1,087,997
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	355,400	1,087,997

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,056,146	1,870,278
減価償却費	159,598	160,871
のれん償却額	—	14,495
負ののれん償却額	△4,049	—
引当金の増減額(△は減少)	△188,023	△186,678
受取利息及び受取配当金	△38,805	△41,361
持分法による投資損益(△は益)	85,370	—
固定資産除却損	141	—
投資有価証券評価損益(△は益)	12,000	317,882
売上債権の増減額(△は増加)	1,360,949	757,631
リース投資資産の増減額(△は増加)	427,649	213,554
たな卸資産の増減額(△は増加)	△506,603	△295,500
営業貸付金の増減額(△は増加)	1,460,652	△290,774
仕入債務の増減額(△は減少)	43,856	662,794
リース債務の増減額(△は減少)	△470,813	△202,730
前受金の増減額(△は減少)	△325,211	△318,317
その他	296,833	147,837
小計	3,369,689	2,809,981
利息及び配当金の受取額	39,181	41,356
法人税等の支払額	△1,528,161	△1,339,347
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,880,709	1,511,990
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△10,818	△15,134
投資有価証券の取得による支出	△7,083	△150
貸付金の回収による収入	—	243
その他	△35,552	△51,665
投資活動によるキャッシュ・フロー	△53,453	△66,707
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△20	△110
配当金の支払額	△479,966	△507,838
財務活動によるキャッシュ・フロー	△479,986	△507,948
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,734	5,728
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,345,535	943,063
現金及び現金同等物の期首残高	12,747,852	15,957,187
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,093,387	16,900,250

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	4,999,497	690,861	159,926	5,850,285	—	5,850,285
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	101,214	6,749	94	108,058	△108,058	—
計	5,100,712	697,610	160,021	5,958,344	△108,058	5,850,285
セグメント 利益又は損失 (△)	1,009,874	173,234	△216,998	966,110	110,442	1,076,552

(注) 1. セグメント利益の調整額110,442千円には、セグメント間取引消去110,442千円が含まれており
ます。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	7,063,186	1,506,171	214,318	8,783,676	—	8,783,676
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	129,078	68,004	131	197,213	△197,213	—
計	7,192,265	1,574,175	214,450	8,980,890	△197,213	8,783,676
セグメント 利益又は損失 (△)	1,841,560	174,257	△94,112	1,921,705	199,582	2,121,287

(注) 1. セグメント利益の調整額199,582千円には、セグメント間取引消去199,582千円が含まれており
ます。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

前連結会計年度までの報告セグメントは、「アミューズメント関連事業」、「ホテル関連事業」に区分して
おりましたが、当第1四半期連結累計期間より、当社グループは業績の評価単位を見直し、「アミューズ
メント関連事業」及び「その他」に含まれておりました「自動認識システム関連事業」を新たな報告セグメ
ントとして区分を変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、業績の評価単位変更後の報告セグメントの区分に
基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。